PT状態制御エリア、PT通知エリア ウインドウ制御エリア

- 変換前 PT 状態制御エリアやウインドウ制御エリアに割り付けたPLCのアドレス に対し 0N/0FF の状態、あるいは数値を与えることでPTを制御できます。PT 通知エリアには割り付けたPLCのアドレスに対し、PTの動作状態が通知さ れます。
- 変換後 システムメモリに変換されます。

「システムメモリをNT互換にする」に設定されていますので、システムメモリのPLCエリア割り付け方法がNTシリーズと同様の方法になります。ただし、NTシリーズ独自の機能は動作しません。 システムメモリNT互換設定には、NT30/620シリーズ互換とNT31/631シリーズ

互換の2種類のモードがあります。変換元NT機種設定に対応した互換モード に設定されます。

0000:		
774/77		
川御エリアの割付アトレス	© SERIALA:DM00000	設定(1)
通知エリアの割付アドレス	Ø SERIALA:DM00100	設定(2)
ハントウ制御エリアの 即はファシュック(P)	SERIALA:DM00200	設定(3)

対策 下表に ※ で示したNTシリーズ独自の機能は、NSの機能にありません。

<NT→NS 画面変換後の注意点>

■ NT30/620 シリーズ設定

<u>PT状態制御エリア</u>

PLC の CH	NT30/620の割付	NSのシステムメモリ
n	画面番号:画面切替指定 (BCD4桁)	\$SWO
※ n+1	コピー元メモリテーブル番号 (BCD3桁)	機能なし
※ n+2	コピー先メモリテーブル番号 (BCD3桁)	機能なし
n+3	PT 状態制御ビット	\$SB * 「PT状態制御ビット」を参照して下さい。

PT状態制御ビット

ビット	NT30/620の状態制御ビット	NS のシステムメモリ
※ 15	画面表示 する/しない	機能なし
※ 14	処理の優先登録 登録/解除	機能なし
13	連続ブザー 鳴らす/止める	\$SB12
12	断続ブザー(短音)鳴らす/止める	\$SB13
※ 11	表示履歴初期化 する/しない	機能なし
10	未使用:常に0	—
9	断続ブザー(長音)鳴らす/止める	\$SB14
8	未使用:常に0	\$SB10
7	画面印刷 する/しない	\$SB25
※ 6	PT ウインドウオープン 禁止/許可	機能なし
5	数值·文字列入力 禁止/許可	\$SB19
4	未使用:常に0	_
3	未使用:常に0	_
2	未使用:常に0	_
1	未使用:常に0	
0	未使用	

<u>PT状態通知エリア</u>

PLC の CH	NT30/620の割付	NSのシステムメモリ
m	画面番号(表示中画面)	\$ SW0
※ m+1	数値・文字列メモリテーブル番号 (BCD 3桁)	機能なし
m+2	PTステータス通知ビット	\$SB* 「PT状態通知ビット」を参照して下さい。

PT状態通知ビット

ビット	NT30/620のPTステータス通知ビット	NS のシステムメモリ
15	PT稼動状況 運転中/停止中	\$SB1
14	未使用:常に0	_
13	バッテリ 低下/正常	\$SB4
12	画面切換ストローブ 切換あり/なし	\$SB2
※ 11	数値入力ストローブ 入力あり/なし	機能なし
X 10	文字列入力ストローブ 入力あり/なし	機能なし
9	未使用:常に0	—
8	未使用:常に0	—
7	プリンタ稼動状況 印刷中/停止中	\$SB30
6	未使用:常に0	—
5	未使用:常に0	_
4	未使用:常に0	_
3	未使用:常に0	_
2	未使用:常に0	_
1	未使用:常に0	—
0	未使用:常に0	

<u>PT状態制御エリア</u>

PLCのCH	NT31/631の割付	NSのシステムメモリ
n	画面番号 制御および通知	\$SWO
	(BCD/バイナリ4桁)	(BCDのみ対応。バイナリ不可。)
※ n+1	コピー元メモリテーブル番号	機能なし
	(BCD/バイナリ4桁)	
X n+2	コピー先メモリテーブル番号	機能なし
	(BCD/バイナリ4桁)	
n+3	PT 状態制御ビット	\$SB*
		「PT状態制御ビット」を参照して下さい。
n+4	未使用	—

<u>PT状態制御ビット</u>

ビット	NT31/631の状態制御ビット	NS のシステムメモリ
※ 15	画面表示 する/しない	機能なし
X 14	処理の優先登録 登録 経験	機能なし
13	連続ブザー 鳴らす/止める	\$SB12
12	断続ブザー(短音) 鳴らす/止める	\$SB13
※ 11	表示履歴初期化する/しない	機能なし
10	未使用:常に0	_
9	断続ブザー(長音) 鳴らす/止める	\$SB14
8	バックライトモード 点灯/点滅	\$SB10
7	画面印刷 する/しない	\$SB25
※ 6	PT ウインドウオープン 禁止/許可	機能なし
※ 5	数值·文字列入力 禁止/許可	機能なし
X 4	PT 側画面切換 禁止/許可	機能なし
X 3	メモリテーブルコピー実行 する/しない	機能なし
X 2	メモリテーブルコピー種別 数値/文字列	機能なし
1	アラーム履歴初期化 する/しない	\$SB32
0	未使用	_

<u>PT状態通知エリア</u>

PLC の CH	NT31/631の割付	NSのシステムメモリ
※ m	数値・文字列メモリテーブル番号 (BCD/バイナリ4桁)	機能なし
m+1	PTステータス通知ビット	\$SB * 「PT状態通知ビット」を参照して下さい。

<u>PT状態通知ビット</u>

ビット	NT31/631のPTステータス通知ビット	NS のシステムメモリ
15	PT稼動状況 運転中/停止中	\$SB1
14	未使用:常に0	_
13	バッテリ 低下/正常	\$ SB4
12	画面切換ストローブ	\$SB2
X 11	数値入力ストローブ	機能なし
※ 10	文字列入力ストローブ	機能なし
9	未使用:常に0	—
8	未使用:常に0	_
7	プリンタ稼動状況の印刷中/停止中	\$SB30
6	未使用:常に0	_
※ 5	グローバルウインドウオープン状況	機能なし
※ 4	ローカルウイント・ウ1オープン状況	機能なし
X 3	ローカルウイント・ウ2オープン状況	機能なし
2	未使用:常に0	_
1	未使用:常に0	—
0	未使用:常に0	—

部品/全体

固定表示、数値表示、入力、文字表示、入力、ランプ、TSW

● 機能設定項目:表示属性

- 変換前 通常:文字色と背景色が指定された色で描画されます。

 - 反転・点滅:文字色と背景色の入れ替わりが繰り返されます。 <u>2000/00/000</u> ←→ <u>000/00/000</u>
- 変換後 点滅、反転・点滅は、すべてフリッカ No.1 に設定され、部品全体の表示/非表示を 交互に繰り返す設定になります。
- 対策 CX-Designer メニューの「PT」ー「フリッカ」を選択し、個々の画面でフリッカ設 定を行ってください。

反転・点滅の場合:

 () 表示色/反転色を交互((表示(R)) () 表示/非表示を交互((繰り返す(D)) () 部品全体(P) () 銘板(C) 	指定色 ▼ 文字色⑤ ▼ 背景色(B) 下 線色(図形のみ)(L)	
④ 表示色を指定(A)		

フリッカした時の文字色と背景色を指定します。

点滅の場合:

	_指定色	
○ 表示色/反転色を交互に表示(<u>R</u>)	□ 文字色(S)	-
◎ 表示/非表示を交互に繰り返す(<u>D</u>)		
○ 部品全体(P)	□ 背景色(8)	*
● 銘板(C)	▶ (図形のみ)(1)	 7
○ 表示色を指定(A)		

銘板の表示/非表示を繰り返す設定にします。

その後、各機能部品にフリッカ No を割り付けてください。部品ごとにフリッカ設定 を変える場合には、複数のフリッカ設定を行い、各機能部品に別々のフリッカ No を 割り付けてください。

<NT→NS 画面変換後の注意点>

数值入力/文字入力

- 機能設定項目:カーソル枠属性
- **変換前** 選択されている入力欄は、カーソルの属性に合わせて点滅や反転の動作をします。

000000000 -- 000000000

変換後 変換後 選択されている入力欄は下図のように入力可能状態になり、反転や点滅 は出来ません。

000000000	▶ 123_	
-----------	--------	--

対策 入力欄の点滅・反転の動作は機能としてありません。

グラフ全体

- 機能設定項目:%表示
- 変換前 指定値に対する数値メモリテーブルの内容を%値で表示します。



- 変換後 %表示は、機能としてありませんので変換されません。
- 対策 グラフの値変化時マクロを使用して 100 %値と現在値より演算して結果を表示 するようにしてください。

折れ線グラフ

● 機能設定項目:表示点数

変換前 最大 512 点まで設定できます。(NT631 の場合)

変換後 最大 256 点までの設定になります。

対策 256 点より多く設定している場合は、モニタ点数と表示点数を設定し直してください。

なお、NSの機能としては最大1000点まで設定できます。

NO.	1562	上限値	下限値	通範	線種オスマサ色	
1	SERIALA:DM01000	100	-100		実線回顧な	線の追加の
						線の削除
						線の設定(
重 恒[国外の値を描画する(2) 格納形:	式(M) INT(符号付	き17ート")		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国外の値を描画する() う7線の頂点数	2) 格納形3	式(<u>M</u>) [INT(符号付	き17ートツ	×	
「 範 - 各り モ	国外の値を描画する() う7線の頂点数	2) 格納形3 表示点数 /	式(M) [NT(符号付	き1ワートツ		
「 筆I - 各り モ	国外の値を描画する() うつ線の頂点数 - 久点数(g) 512 - 1	2) 格納形5 表示点数 ⓒ 点数 (12)	式(M) INT(符号付	き1ワートツ		
「輸」	国外の値を描画する() うつ線の頂点数 - 久点数(g) 512	2) 格納形 表示点数 © 点数(1) C 開接指定(14)	式(M) INT(符号付	ŧ1 ワ ∽Ւ♡	 野定(S)	
「輸」合力	田外の値を描画する(うつ線の頂点数 - 久点数(3) 512	2) 格納形 表示点数 © 点数(1) C 間接指定(1)	式∭ INT符号付 512 <u>-</u>	ð17-⊦°)	▲	
「粕」	田外の値を描画する() うつ線の頂点数 - な点数(g) 512	2) 格納形 表示点数 ○ 点数(1) ○ 間接指定(10) 表示開始位置 。 (#案(1))	式∭ INT符号付 512	ð17-⊦°)	▲	
「 範 - 各 ク 毛	田外の値を描画する(うつ線の頂点数 - な点数(3) 512	2) 格納形 表示点数 ○ 点数(1) ○ 間接指定(19) 表示開始位置 ○ 位置(2) [式∭ INT符号付 512 <u>-</u> 0 <u>-</u>	ð17-⊦°)		

- 機能設定項目:監視アドレス
- **変換前** 連続した複数の数値メモリテーブルの内容を表示します。
- 変換後 同一 Ch の連続したアドレスの内容を表示します。
 1 本の線で複数 Ch 種別や不連続アドレスの表示が出来なくなります。
- 対策 連続したアドレスに割り付け直してください。

<NT→NS 画面変換後の注意点>

V

I / O コ メ ン ト

タッチスイッチ/ランプ

- **変換前** PLC 上のチャネル・接点に対して、1/0 コメントを入力できます。(ラダープロ グラム内の1/0 コメントを取り込むことができます)
- **変換後** 1/0 コメントテーブルは CSV 形式 (10 cmnt. csv)のファイルに変換され、プロジェ クトフォルダへ出力されます。
- **対策** 10cmnt. csv を開き、各チャネル・接点に対応する 1/0 コメントをコピーし、変数テーブルの 1/0 コメント欄に貼り付けてください。
 - (例) PLC アドレス:00000.00 I/0 コメント:運転開始

変換実行後、10cmnt.csv を開き 1/0 コメントをコピーします。

M M	crosoft Excel	- IOcmnt.	CSY						
8	ファイル(E) 編集	(<u>E</u>) 表示	⊻ 挿	入① 書式(2) ツー	ル(工) データ	(<u>D</u>) ウィンドウ	7₩) ヘルプ(出	Ø	
	൙ 🖬 🔁 着	ð 🖪 💱	X 🖻	🛍 • 🍼 🗠 • 🗅	🍓 Σ	• AL ZI	100%	• ? .	
MS	Pゴシック	+ 11 +	B I	⊻ ≡ ≡ ≡ 8	3 9 %	•.0 .00 •.4 00. t	律律	• 🕭 • 🗛 •	· •
-	B2	-	fx 運	眃開始					
	A			В	С	D	E	F	G
1	PLCアドレス	I/OI	コメント						
2	CI000000.00	〕運転関	附		3				
3				1					

CX-Designer で変数テーブルを開き、アドレス:00000.00 の 1/0 コメント欄を 選択します。

追加	検索	未使用検	索	前八検索	次八検索		検索結果	刑ア
ネスト		\$17*	7	ドレス種別/番	号		אַלאָבר 🗾	
全て 」	*	全て 💌		全て	-			
PTMEM	AutoGen1	BOOL	\$B0		8			
PTMEM	AutoGen2	CHANNEL	\$W0					
SERIALA	AutoGen4	BOOL	00000.00)		6		

アドレス設定ダイアログが開きますので、1/0コメント欄に貼り付けます。

νοιχγέφ	運転開始
	T

変数テーブルに 1/0 コメントが設定されます。

<NT→NS 画面変換後の注意点>

追加	検索	未使用検知	索前八検索	次八月	検索	検索結果切了
ネスト	- 名称		7トレス種別/番	号	 //0	 אלעכו
全て	*	全て 💌	全て			
PTMEM	AutoGen1	BOOL	\$B0			
PTMEM	AutoGen2	CHANNEL	\$W0			
SERIALA	AutoGen4	BOOL	00000.00		運転開始	

アラームリスト

イメージ/ライブラリ表示

- 変換前 アラーム項目をタッチするとイメージ/ライブラリを表示できます。
- 変換後 アラーム項目をタッチしてもイメージ/ライブラリは表示されません。
- 対策 ポップアップ画面を使用してイメージ/ライブラリを表示できます。
 - イメージ/ライブラリは変換支援ツールで「bmp ファイル」「vec ファイル」に変換されます。
 - ② 新規にポップアップ画面を作成し、表示したいイメージ/ライブラリをB MP部品/形状指定ランプにて表示します。
 - ③ アラーム/イベント設定の各項目をダブルクリック(もしくは修正選択) し、下記、「アラーム/イベント項目設定」ダイアログを表示します。
 - ④ 切換画面No.に新規作成したポップアップ画面を指定します。

切換①	Type 0	•	発生文字色	
			解除文字色	
メッセージ ⁽ <u>M</u>)	装置A異常			
アドレス(W)	SERIALA:00	0000.00		設定(1)
検知い%-ン(<u>F</u>)	立上り	•		
優先順位(P)	1	-	表示種別①	75-4重
かルーフ°(<u>G</u>)	0:			設定(2)
画面切換——切換画面NO.	10:イメージ・ラ	ライブラリ表示画面	Đ 5(A)	設定③…
画面切換 切換画面NO.	10:イメージ・5 完生時に白き	ライブラリ表示画面	۵ 5(<u>۵)</u>	設定(3)
画面切換 切換画面NO. 「 アラーム/イヽフ コンテンツ切換	10:イメージ・3	うイブラリ表示画面	Ξ 5.(<u>Δ</u>)	設定@
画面切換 切換画面NO. 「アラームパイトン コンテンツ切換 コンテンツ番号(N)	10-イメージ・ラ 発生時に自動	ライブラリ表示画面 曲で画面切換す2	Ξ 5(<u>α</u>)	設定③
画面切換 切換画面NO. 「 7ラーム/ハック コンテンツ切換 コンテンツ研奏(N) 「 7ラーム/イヘン	10:イメージ・ラ 発生時に白ま (発生時に白重	ライブラリ表示画面 まで画面和換え2 りま 動でコンテンツ切換で	ī 5 (<u>α</u>) #δ(<u>B</u>)	設定@
 画面切換 切換画面NO. アラーム/イック コンテンツ切換 コンテンツ番号 (N) アラーム/イペン 反 履歴ファイル(2) 	10-イメージ・5 発生時に自動 (発生時に自動 (保存する(S)	ライブラリ表示画面 地で画面加増する コーコー 力でコンテンツ切換す	ā 5 <u>(企</u>) する(<u>B</u>) 履歴設定総数	
 画面切換 切換画面NO. アラーム/イハン コンテンツ切換 コンテンツ番号(N) アラーム/イヘン レ 履歴?ァイルに レ アラーム/イヘン 	10-イメージ・ラ 1発生時(こ白重))))) (保存する(<u>5</u>))))) 解除時(に白重	ライブラリ表示画面 中の画面切換する りまう めでコンテンツ切換す	ā 5(<u>0</u>) する(<u>B</u>) 履歴設定総数	
 画面切換 切換画面NO. アラーム/イヘン コンテンツ毎号(N) アラーム/イヘン アラーム/イヘン アラーム/イヘン ドキュメント表示 	10:イメージ・ラ 1発生時(こ白重) ト発生時(こ白重 (保存する(S)) N解除時(こ白重 示部品」上(ご)*+	ライブラリ表示画面 かつ画面切換する の一 動でコンテンツ切換す めで削除する(D) コントを表示する	10 5.(<u>0</u>) する(<u>B</u>) 履歴設定総数 (①)	設定③ 3 3
 画面切換 切換画面NO. アラーム/イャラ コンテンツ切換 コンテンツ研告(N) アラーム/イペツ アラーム/イペツ アラーム/イペツ ドキュメント表示 	10-イメージ・ラ 1発生時に自動 ト発生時に自動 (保存する(S) ト解除時に自動 にお品上にドキ	ライブラリ表示画面 かで画面が加速する の かで自じ除する(D) コメントを表示する ドキュメント番号	□ ■ する(但) 履歴設定総数 ④) 1	設定③… 3 設定④…

<NT→NS 画面変換後の注意点>

⑤ 「アラーム/イベントサマリ・履歴」のプロパティにて、「アラーム/イベント登録で指定ページへ画面切換」を有効にします。

表示データー		表示種別
◎ 発生中アラーム⊘	○ アラーム履歴(Y)	
ケルーフ*指定	(元)(6)	
1:		日付の古い順に表示
日時表示方式		同一行に表示
切換(L) Type 0		二発生頻度順に表示する場合、 同一アラーム/イベントは同一行に表示(K)
日付表示(B) □ す	る yyyy年mm月dd日 dddd 💽	
時刻表示(M)	xxxx hh時mm分ss秒 🔹	75-4/1小登録(0)
アラーム/イベント選択時の	動作	
□ 指定アドレスへアラー	AID番号を書き込む(N)	=
YNL7040		

⑥ 上記設定によりアラーム項目をタッチすれば、②で作成したポップアップ 画面が表示されます。

数値メモリテーブル 文字列メモリテーブル

初期化

- **変換前** 電源 0N 時に数値・文字列テーブルの初期値で初期化する/しないを選択できます。
- 変換後 常に参照アドレスの内容を表示します。
- 対策 NSシリーズでは初期値を各アドレスに割り付ける機能はありませんので、電源 OFF 時の内容(レジューム=あり、初期化=あり)や、PT 初期値の内容(レジューム=なし、初期化=あり)は表示できません。しかし、初期値を各アドレスに割り付けるマクロを動作させることで初期化を行うことができます。

ビットメモリテーブル

画面切換

- 変換前 該当ビット ON で指定画面に切り換わります。
- 変換後 変換されません。該当ビットを ON させても画面が切り換わりません。
- 対策 以下のように「アラーム/イベント設定」ダイアログであらかじめアラーム登録 しておくことにより画面切換を行うことができます。
 - ① アラーム/イベント設定を開き、「修正」ボタンをクリックします。

		メッセージ		71	シス	優	表示	ゲ	自動	切換	自動	履歴	検	発生	解除	自動	コンテン	修正(M)
A	Narm1		8	SERIALA	00000.00	1	Н	0	ON	0	OFF	ON	1			ON	0	
A	Narm2		8	SERIALA	00000.01	1	H	0	ON	0	OFF	ON	1			ON	0	追加(<u>A</u>)
A	Marm3		5	SERIALA	00000.02	1	H	0	ON	0	OFF	ON	Î		L	ON	0	
A	Narm4		2	ERIALA	00000.03	1	н	U	ON	U	OFF	ON	T			ON	U	削\$\$€
																		1.4.7.44
																		上へ入替
																		上へ入替
																		上上下
																		上へ入替 下へ入替
																		上上下
																		上八入替 下へ入替
																		_上へ入替 下へ入替
																		上へ入替 下へ入替
																		<u>上へ入替</u> 下へ入替
																		上へ入替 下へ入替

- ② アラーム/イベント設定で該当ビットを設定し、「アラーム/イベント発生時に自動で画面切換する」をチェックありにします。
- ③ 「切換画面 NO.」の「設定」で切り替えたい画面番号を指定します。

Alleration	目設定			
切換①	Type 0	•	発生文字色	-
			解除文字色	-
メッセージ ^(M)	Alarm1			
アドレス(<u>W</u>)	SERIALA:00	000.00		設定(1)
検知パ゚゚ゕーン(E)	立上り	•		
優先順位(P)	1	÷	表示種別①	75-4重 💌
ケルーフ°(<u>G</u>)	0:			設定(2)
切換画面NO) 小発生時に自動	かで画面切換する	5(<u>A</u>)	itew.
The second se				
-12727切探		and an other statements of the statement		
コンテンツ切換) 当		
コンテンツ切換 コンテンツ番号(M マ アラーム/イヘミ) (() () () () () () () () () () () () () 当 hでコンテンツ切換:	₫る(<u>B</u>)	
コンテンツ研究 コンテンツ番号(N マ アラーム/イヘミ マ 履歴ファイル() (() 小発生時に自動 こ(保存する(<u>S</u>)) 当 かでコンテンツ切換・	する(<u>B</u>) 履歴設定総数 「	4
コンテンツ研究 コンテンツ番号(M マ アラーム/イベ) マ 履歴ファイル(マ アラーム/イベ)) () 発生時に自動 こ(保存する(S)) が解除時に自動 デ部品 Fiction) 当 カでコンテンツ切換: カで削除する(D) マッパケタテティス	する(<u>B</u>) 履歴設定総数 [4
コンテンツ番号(M) マテラーム/イベ! マ アラーム/イベ! マ 履歴ファイル(マ アラーム/イベ! 「ドキュメント表) (で 2) (発生時に自重 2(保存する(S) 2) (保存する(S) 7) (保存する(S) 7) (保存する(S) 7) (保存する(S) (大解除時(に自重 示部品上(こ))、 4,) 1 カでコンテンツ切換 カで削除する(D) ュメントを表示する ト ^バ キュメント番号	する(B) 履歴設定総数 「 ① 1	4 設定(<u>4</u>)

④ 上記の設定により指定ビットを ON すると画面が切り換わります。

ライブラリテーブル イメージテーブル

コメント

- 変換前 各ライブラリ、各イメージにはコメントを付けることができます
- **変換後** ライブラリ/イメージは変換支援ツールで「bmp ファイル」「vec ファイル」に変換され ますが、コメントを付けることはできません。
- 対策 ライブラリコード、イメージコードで判断してください。

演算テーブル

演算テーブル

- **変換前** 5項演算が可能です
- **変換後** NSシリーズには演算機能はありませんので、演算を用いた表示、PLCへの 書き込みは正しい値となりません。
- 対策 スケーリングをおこなうには数値表示の「単位とスケール No. の指定」を使用 してください。その他の演算はマクロ命令を作成してください。ただし、常時 演算はできません。

画面属性

履歴

- 変換前 履歴ありの場合、画面を表示すると画面表示履歴に記録されます。
- 変換後 画面属性には画面表示履歴の機能はありませんので変換されません。
- 操作ログの「画面の表示履歴」で代用可能です。但し、\$\$B40 (システムメモリ)を ON してい る間に表示した画面の履歴が記録されます。

操作ログ機能(機能部品の操作、マクロの実行)は、次の手順で行います。

①操作ログの設定

機能部品のプロパティ設定「書込設定」タブ(拡張タブ)において「操作ログ履歴あり」を設定 します。設定することにより、この部品は記録の対象となります。

操作ログを記録できる機能部品は、ON/OFF ボタン、ワードボタン、数値表示&入力、文字列 表示&入力、サムロータリスイッチの5つです。

2操作ログの実行

機能部品の操作/画面表示/マクロ実行について記録を取るかどうかは、それぞれシステ ムメモリの操作により決定します。

- 1)機能部品の操作履歴 \rightarrow
- \$SB39 ON:実行 OFF:実行しない
- 2) 画面の表示履歴
- \$SB40 ON:実行 OFF:実行しない \rightarrow
- 3)マクロの実行履歴
- \$SB41 ON:実行 OFF:実行しない

③操作ログの記録形式

操作ログとして、次のデータが記録されます。これらのデータはシステムメモリ\$SB38 を ON に することで、メモリカードに CSV ファイルとして保存できます。 CSV ファイル名は Operat. CSV です。操作ログを記録できる件数は最大1024件です。



 \rightarrow

<NT→NS 画面変換後の注意点>

バックライト

変換前 点灯/点滅の選択ができます。

変換後 画面属性には、バックライトの点灯/点滅の属性はありませんので変換されません。

対策 画面ロード時マクロ/画面アンロード時マクロで、システムメモリの\$SB10(バックライト点滅 制御ビット)を制御することで対応できます。

※起動画面を点滅させることはできません。

●起動画面の画面ロード時マクロで、\$SB10をONにする。(起動時処理)

マ加編集			
実行条件	画面中神		
フ ゚ ログラム(P)		
\$\$B10=1;	'起動時処理	$\overline{}$	

●点滅させる画面の画面ロード時マクロで、\$SB10をOFFにする。

実行条件	画面中時
7 ከታ <u>57 (b</u>)	

●点滅させる画面の画面アンロード時マクロで、\$SB10をONにする。

7如編集	
実行条件	画面アンロート 時
フ ゚ ログラム(<u>P</u>	
\$SB10=1;	ソドックライト点灯
システムメ	モリ NT 互換モード時は\$SB10=1 でバックライト点灯です

<NT→NS 画面変換後の注意点>

ブザー

- 変換前 画面属性で、連続音/断続短音/断続長音の選択ができます。
- 変換後 画面属性には、連続音/断続短音/断続長音の属性はありませんので変換されません。
- 対策 画面ロード時マクロ/画面アンロード時マクロで、システムメモリの\$SB12(連続ブザー)、 \$SB13(断続ブザー短音)、\$SB14(断続ブザー長音)を制御することで対応できます。

注: \$SB12~14 が複数同時に ON になった場合の優先順位は以下の通りです。 高 \$SB12(連続ブザー)>\$SB13(断続ブザー短音)>\$SB14(断続ブザー長音)低

《連続ブザーを設定する》

●画面ロード時マクロで、\$SB12をONにします。

宝行条件	and the	
プログラム(<u>P</u>))	
\$SB12=1;	'連続ブザーON	
\$SB13=0; \$SB14=0;	◇断続ブザー短音○FF ◇連続ブザー長音○FF	
φουτ τ σ,		

●画面アンロード時マクロで、\$SB12をOFF にします。

1	7加編集		
	実行条件	画面アンロード時	ĺ
	フ ゚ ログラム(E	2	
C	\$SB12=0;	'連続ブザーOFF	

《断続ブザー長音を設定する》

●画面ロード時マクロで、\$SB14 を ON にします。

"ከታ"ラム(P)		
SB12=0; SB13=0; SB14=1;	 · 連続ブザーOFF 	

●画面アンロード時マクロで、\$SB14 を OFF にします。

実行条件	画面アンロード時	
רינים <i>ד</i>	<u>(P)</u>	
\$SB14=0	; '連続ブザー長音OFF	

注:ブザー音を鳴らすには、システム設定のブザー音をON設定にしてくださ	
(ブザー音設定がOFF,ERROR ONのときは、\$SB12~14 をON にしてもブザーは	〔鳴りません。)
システム設定	1
PT動作 イニシャル 履歴 ビデオ フリンタ NSハンディ 最大画面サイス*	
システム起動待ち時間(W) 0 👘 秒 (0-10秒)	
タッチスイッチ入力音の ON ▼	
7 [*] ザー音(<u>B</u>) ON I	

グリッド

変換元ファイルをメモリマップイメージファイル(*.mmi)としているため、すでにこのファイルにおいてグリッドの設定情報は失われています。変換支援ツールで変換後もグリッドの設定情報は存在しません。

対策 各画面でグリッドを設定する必要があります。

注:部品のグループ化情報も同様に mmi ファイルで保存した際に 失われています。

ホスト接続中画面

画面9000

- 変換前 画面9000画面を作成することで、ホスト接続中画面となります。
- 変換後 ホスト接続中画面は作成できないため、変換されません。
- 対策 ホスト接続中画面の作成は機能としてありません。

固定表示

塗りつぶし

- 変換前 固定表示の塗りつぶし部品で、領域の境界まで塗りつぶすことができます。
- 変換後 塗りつぶし部品は変換されません。
- **対策** 塗りつぶす領域を構成しているものが、単一の部品で構成されているか、それ以外かによって、2 通りの対応があります。

●単一の部品で構成されている場合

変換された部品のプロパティから、塗りつぶしタブを開き、[塗りつぶしなし]のチェックを外します。 (塗りつぶす設定になります)

塗りつぶし色を「色指定」で設定してください。

矩形 - 0000
線 サイスジ位置 フリッカ 塗りつぶし 立体枠/影/面取
□ 塗りつぶしなし(№)
色指定

●複数の部品で構成されている場合

塗りつぶしたい領域を図形(多角形・四角形等)で新規作成し、該当色で塗りつぶします。

固定表示イメージ/ライブラリ

間接参照

変換前 数値メモリテーブルにイメージ/ライブラリ番号を指定すれば、間接参照により、イメージ /ライブラリの表示が可能です。

変換後 間接参照時は変換されません。

対策 以下の方法で、BMP 表示の間接参照が可能です。

①イメージ/ライブラリは変換支援ツールでく変換先指定フォルダ>¥<プロジェクト
 名>フォルダ内の BMP ファイルに変換されています。
 (もし、ライブラリが VEC ファイルに変換されている場合は、変換支援ツールの設定
 を確認してください)

②イメージを表示させたい位置に、ビットマップ部品を新規作成します。

③間接指定時に使用する TXT ファイルを新規作成します。 TXT ファイルには、変換ツ ールで変換された BMP ファイル名を下記のように記述します。 TXT ファイルはく変 換先指定フォルダン¥<プロジェクト名ンのフォルダ内に保存してください。

[作成例]

TXT ファイル



④ビットマップ部品プロパティを開き[表示ファイルを間接指定する]をチェックします。

- ⑤「表示画像格納ファイル」の横の[参照]ボタンをクリックして、上記③で作成した TXT ファイルを指定します。
- ⑥ファイル行指定用アドレスを設定します。必要に応じ[値が0の時画像をクリアする] をチェックします。



ポップアップウインドウ

ポップアップウインドウ/キーボード機能のオープン

- **変換前** 「ローカルウインドウを置換える」を使用すると、開いているローカルウインドウを閉じ、別の ウインドウを開くことができます。
- **変換後** ウインドウ(ポップアップ画面)を開くコマンドボタンに変換されます。表示中のウインドウを 閉じることなく、別のウインドウを開く状態になります。
- **対策** 「タッチ ON 時」マクロで、システムメモリ\$SW1(表示中ポップアップ画面 1 番号)、\$SW4 (表示中ポップアップ画面 2 番号)、\$SW7(表示中ポップアップ画面 3 番号)に、ウインドウ の画面番号を変更することで対応できます。
 - ① コマンドボタンを新規作成し、「無処理」を選択します。
 - ② 「タッチON時」マクロに、下記のように記述します。

加編集					L.
実行条件	\$ ⊎€ON₿	}		F 大きいフォント(B)	ОК
ንግታንጋፈ(ይ)				キャンセル
if(\$SW1== \$SW1=H	=H5) 10;	、表示中ポップアップ画面1番号が、 、画面5を画面10に置換える。	画面5なら		<u> </u>
elseif(\$ \$\$\#4=H	S₩4==H5) 10•	、表示中がップアップ画面2番号が、 、画面5を画面10に罟換える。	画面5なら		
elseif(\$ \$SW7=H endif	SW7==H5) 10;	、表示中ボップププ画面3番号が、 、画面5を画面10に置換える。	画面5なら		

(例:画面5を画面10に置換える)

- 変換前 開くウインドウの X, Y 座標を指定できます。
- **変換後** NS シリーズではコマンドボタンによるウインドウオープンに X、Y 座標を設定する属性がな いため、変換されません。そのため、画面中央(ウインドウ(ポップアップ画面)のデフォルト) に表示されます。
- **対策** ウインドウ(ポップアップ画面)の画面プロパティの「ポップアップ画面表示位置」を[任意の 位置]に設定し、X 座標, Y 座標を設定してください。

■面が1人 幅(W) 320 → 高さ(H) 2 「 駅中の売売サ(2)*=約定する(D)	40 王 実行(RUN)時の画面サイスを 設定してください。
 オ*ッフアッフ 価面として表示する(P) オ*ッフアッフ 価面表示位置 任意の位置 × × × ※ 100 型 Y座標 200 型 	- ポッブアッブ画面設定 ▼ 表示中に他の画面入力許可(M) ▼ ベース画面切換時に画面を閉じる(©) ▼ タイトルバーを表示しない(T)

注:NT シリーズでは、ウインドウ表示位置にウインドウの左下座標を指定します。NS シリーズ では、ウインドウ(ポップアップ画面)表示位置に、ウインドウの左上座標を指定します。

ポップアップウインドウ/キーボード機能のクローズ

変換前 開いているウインドウをタッチスイッチで閉じることができます。

変換後 コマンドボタン「自ポップアップを閉じる」に変換されます。

対策 クローズボタンは2つの使用方法があります。
 A)タッチスイッチの配置がウインドウ上で、かつそのウインドウを閉じる時。
 B)タッチスイッチの配置が、ウインドウ・画面を問わないで、指定のウインドウを閉じる時。自画面を指定することもできます。

A)の場合 既に「自ポップアップ画面を閉じる」に設定されています。そのままお使いください。

一般 色/形状 銘板 周辺枠		
#Piii-1,X7トピノ 機能選択(E) ホ [®] ッフアッフ [*] 画面制御	- 「「「「「」」」 「● 矩形(E) ○ 九型(G) ○ 形状指)	ŧZ
制御内容		
● <u>目本 97 797</u> 回田を閉じる◎	(mm// 1	
対象画面 0000:Screen Page0000		

B)の場合「指定ポップアップ画面を閉じる」に設定し、[選択]より対象画面を指定します。

一般 色/形状 銘板 周辺枠	
部品コバト(©) (
機能選択(E) 木シップアップ画面制御	- 本沙形状 ● 矩形(E) ● 丸型(G) ● 形状指定(
制御内容	
 自ポッコアップ語画を開きる(S) 	
 ・ 指定ボッパアッパ 画面を閉じる(① 対象画面 10002ウィンドウ 	(IIII)
○ 白ホッコ?アッコ?面面ち移動(M)	

変換前 タッチスイッチの ON/OFF で、ウインドウをオープン / クローズすることができます。

変換後 ウインドウ(ポップアップ画面)を開閉するマクロを設定したコマンドボタンに変換されます。

対策 そのままお使いください。

例:ローカルウインドウ1でウインドウ画面 1000 をオープン/クローズするボタンは以下の ように変換されます。

አ ግረንኮች	ኛያን - PBC0001	
一般	色/形状 銘板 周辺枠 フリッカ 書込設定 パスワード 制御フラゲ マ加	#
ר ד _	如実行条件	
1	□ \$vyfON時(W)	
	▼ \$vfOFF時⊗ 7加編集②	
	7如編集	
	実行条件 AvyFOFF時	
	ን የ ከ ት ነ ፡፡	
	IF(\$SW1!=0) \$SW1=0; ELSE \$SW1=4096; ENDIF	

マクロ構文は以下のような意味になっています。

IF(\$SW1!=0)	'もし、\$SW1(表示中ポップアップ1画面番号)にゼロではない値が入っているならば
\$SW1=0;	'ポップアップ1の画面を閉じます。
ELSE	'そうでないならば、
\$SW1=4096;	'ポップアップ1で画面 1000を開きます。(「10 進数 4096」は、「16 進数 1000」です)
ENDIF	

タッチスイッチ

コピー設定

- **変換前** 「数値メモリテーブル」内どうし、または「文字列メモリテーブル」内どうしの間でコピーができます。
- **変換後** メモリテーブルが変換されませんので、テーブル内のコピーも変換されません。定数(数値)を、カーソル位置(フォーカスのある入力欄)にコピーする機能のみ変換されます。
- **対策** 次の条件に該当するのであれば、ワードボタンで代用が可能です。
 - A) 定数 → PT メモリ/PLC メモリ
 - B) PT メモリ / PLC メモリ \rightarrow PT メモリ / PLC メモリ
 - ワードボタンを新規作成する。コピー先の PT メモリ/PLC メモリのアドレスを通信 アドレスの[書込アドレス]欄に入力します。
 ボタン新作い記字は「使たいしまう選択します。
 - ② ボタン動作」設定は、[値セット]を選択します。

A) 定数 → PT メモリ/PLC メモリの場合

「値セット」の[設定値]欄にコピー元の定数を設定する。 (例: "1234"を\$W100(PTメモリ)にコピーする)

数値の仕様(<u>N</u>) INT(符号付き19-	` "	- ボシ形状-	○ 形状指定
- 範囲 -32768 ~ 32767			
ーホ汐ン動作 ← 値セット(V)			
○ 設定値(G)	1234		1
○ 間接指定(L	2 1		設定(1)
◎ 値の増減Φ			
☞ 増減値(2)	1		
C 間接指定(2)		設定(2)
C +0 -00 -01-	== 0.0	(百生/0)	

B) PT メモリ/PLC メモリ → PT メモリ/PLC メモリの場合

「値セット」の[間接指定]欄にコピー元の PT/PLC メモリのアドレスを設定する。 (例: CIO120ch を DM100ch にコピーする)

部品327F© -数値の仕様(N)	
INT(符号付き1ワート")	 ● 矩形(E) ● 形状指定(2)
- 範囲 - 32768 ~ 32767	
- 赤沙動作	
☞ 値セット⊙	
○ 設定値(G)	
○ 間接指定(E) SERIALA:00120	設定(1)
◎ 値の増減型	
C 間接指定(Q)	設定(2)
○ ポッブアップメニュー表示(<u>M</u>) メニュー編	[集(3)]

重ね合わせ

- 変換前 タッチスイッチを重ねて配置できます。重なっている部分をタッチすると、全てのタッチスイ ッチを1回のタッチで操作できます。(NT31/631では最大256個まで重ねることができま す。それ以外の機種でのタッチスイッチの重ね合わせはサポート外のものがあります。)
- **変換後** 重ねたタッチスイッチはそのまま変換されますが、重ねたタッチスイッチは NS では正常に 動作しません。
- 対策 マルチファンクションボタンにコンバートし、1つのマルチファンクションボタン内に複数の 機能を設定してください。タッチ時動作は最大 32 機能まで設定できます。

設定方法

 マルチファンクションボタン作成のベースにする機能部品を選択し、 プロパティ下部にある「コンバート」からマルチファンクションボタンへ変換します。

既定値として登録する(D) 通用(A) 通用(A)	ок (キャンセル	^/レフ°

②それぞれの機能を設定します。

今回は例として、以下の設定をしています。 ・タッチ ON 時…CIO30 00 のビットセット機能。

	011 - 1	0.000		~ ~ ~ .	C > 1	120
・タッチ	OFF B	寺…画面	100	への運	面切	換機能。

マルチファンクション - MF0011	
 一般 色/形状 銘板 部品コパパ(2) 追出の 自昭金(2) + ↓ ↓ ↓ 	
	▲△ (回回の)(A) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日